

毎年
4/2は

国連の定めた
世界自閉症啓発デー

※国連が定める啓発デーには、3月21日の「世界ダウン症の日」もあります。

発達障害啓発週間 4月2日～8日


応援メッセージ
募集しています

日本各地で啓発イベントが行われます。詳しくは公式サイトへ

世界自閉症啓発デー 日本実行委員会公式サイト
https://www.worldautismawarenessday.jp/

啓発デー

#世界自閉症啓発デー

主催 厚生労働省(発達障害情報・支援センター)
一般社団法人日本自閉症協会

共催 文部科学省、こども家庭庁、国立特別支援教育総合研究所、全日本自閉症支援者協会、日本自閉スペクトラム学会、日本発達障害ネットワーク、発達障害支援センター全国連絡協議会、全国発達障害教育研究会、全国児童発達支援協議会、自閉症児者を家族にもつ医師・歯科医師の会、国立高度知的障害者総合施設のぞみの園

お問い合わせ先 一般社団法人日本自閉症協会 Tel.03-3545-3380 Fax.03-3545-3381 asj@autism.or.jp

セサミストリートと自閉症について

「セサミストリート」をご存じですか？ 1969年放送開始から57年目を迎えております。徹底した世界観を通じ、世界の放送業界において様々な賞を受賞してきました。セサミストリートの世界はマペットと呼ばれるキャラクターたちとヒューマンキャストと呼ばれる実際の人間の俳優のキャラクターたちがさまざまな物語を繰り広げます。日本でも1971年にNHKでの放送が始まり、現在はテレビ放送は終了して見る事はできませんが、youtubeあるいはU-NEXTで見ることが出来ます。そんなセサミストリートが今、力を入れているのが「自閉症」です。

2018年の「世界自閉症啓発デー」の活動よりセサミストリートをポスターに起用しました。全国の自治体を通じて学校、保育所、福祉施設等様々なところへ配布されており、目にすることも多いと思いますので、この可愛いキャラクターを通して是非「自閉症」について知って頂き、共生社会について考えて頂ければと思います。



世界自閉症啓発デーとは

毎年4/2は国連が定めた「世界自閉症啓発デー」また4/2～8は発達障害啓発週間です。

今年は「ちがいはちから、つながりは未来」をテーマに自閉症の特性がある「ジュリア」を中心により理解者であるお友達が笑顔でジュリアを囲む優しさ溢れるポスターになっています。それぞれが持つ個性や特性の違いは個人はもちろんの事、社会の力となり、違いを持つ人と人のつながりは多様性・公平性にあふれた優しい未来を創造する事にもつながります。



詳細は別紙へ

ポム・ド・パンの理念

- ・障害があっても、誰からも愛される人に成長できるように、丁寧に寄り添って関わります。
- ・障害があっても、正しいことを根気よく伝えることにより、何歳になっても成長することを信じます。
- ・障害があっても、できることが増えるように、様々なことを獲得できるように、一貫性をもって、継続して支援します。
- ・障害があっても、その方の得意なことを、大好きなことを見つけ、これを通して、生活基盤を作ります。

開催案内

ウインドヒルの療育の基になっている「トモニ療育センター 河島淳子先生の“心を育てる療育”」「継続は力なり。自閉症と言う障害に希望を持って、愛を持って、勇気を持ってチャレンジすることが大切」とい河島先生は語っておられました。今アーティストとして活躍している石村嘉成氏の映画「青いライオン」の上映会とトモニ療育センター様による講演会が開催されます。是非興味のある方は問い合わせしてみてください。

管理者 松原 正子

香川県発達障害者地域支援体制整備事業 一般公開講座

映画上映会 & 講演会

映画上映

新居浜ひかり物語 青いライオン

2歳で自閉症と診断された石村嘉成さんが、家族や周囲の支援のもと自立に向けた厳しい療育に向かい、画家として才能を開花させた実話を、ドキュメンタリーとドラマを融合させて描く感動作です。

本作では、将来自立した人生を送れるようにと、母・有希さんが嘉成さんの幼少期から献身的に取り組んできた「療育」そのものに焦点が当てられています。画家として成功をおさめた現在の嘉成さんの礎となったのは、トモニ療育センターの河島淳子先生たちの「知識ある愛」をもった教育、つまり「自閉症の子の脳には傷ついている部分もあるけれど健全な箇所もある。その健全な箇所を最大限フルに発達させること。それで全体を補いながら脳の機能の弱い部分の発達も促せば、教育はできる」という理念の「療育」でした。

講演会

よりよい育児と教育を求めて

—発達障害児の生きる力をつけ 心を育てる 育児と教育—

一般社団法人 トモニ療育センター 理事長
NPO法人 トモニ発達支援所 所長 堀内 宏美氏
一般社団法人 トモニ療育センター 理事 高橋 知恵子氏

2026年 5月 9日(土) 13:30 ~ 16:15 開場13:00

三木町文化交流プラザ メタホール

(香川県木田郡三木町大字鹿伏360)

申込方法 QRコード(右)またはFAX(裏面)

申込締切 5月 1日(金)



無料
定員700名



施設見学に来所されました。 3月17日(火)

令和8年3月17日(火) 社会福祉法人 西予総合福祉会

障害者支援施設 松葉学園施設長 佐藤真実様他、5名の方が施設見学に来られました。ウインドヒルでの利用者様の活動の様子であったり、職員の支援の様子などを見て頂き、早速感想を頂きましたのでご紹介させていただきます。

松原施設長 様

この度は、お忙しいにもかかわらず、急遽決まった施設見学を快く受け入れていただき、誠にありがとうございました。念願であった施設見学が実現し、大変感謝しております。

施設は、広大な敷地の中に必要な建物が整備され、安心して過ごせる利用者の居場所が確保されていることが印象的でした。また、職住分離が明確にされていることで、落ち着いた環境の中で生活が送れるよう配慮されていることも感じられました。

日々の生活の中で、利用者一人ひとりの「できること」を大切にしながら、生活に必要な力の習得を支援されており、できることが増えていく過程を支える「大人の療育」として目的を持った支援が丁寧に実践されていると感じました。加えて、職員間の情報共有やOJTを通じた支援の統一、支援の質を高めるための組織的な取り組みが随所に見られ、大変参考になりました。さらに、地域とのつながりも大切にされており、地域の方々がスポーツの場として施設を利用されていることや災害時の受け入れも想定されている点において、地域に開かれた施設であることを実感いたしました。

見学を通して、このような環境で生活できたら幸せだと感じると同時に、ウインドヒルのような支援を望まれる方は、まだまだ多くいらっしゃるのではないかと感じました。

開所から20年以上経過している中で、現在あるいは今後求められる入所施設としての役割を先駆的に実践されていることに深い感銘を受けました。自閉症を専門とする施設がどのようなものか期待して見学に臨みましたが、その内容は想像以上に充実しており、多くの学びと気づきを得ることができました。今回の見学で得た学びを今後の支援に活かしていきたいと考えております。

改めて、貴重な機会をいただきありがとうございました。

松葉学園 施設長 佐藤 真実
見学者一同

デリバリーアーツ2025「讃岐国分寺太鼓 和・心・響・感」 令和6年11月26日(水)

今年も高松市主催の「デリバリーアーツ 2025」に応募し、2025年11月26日に「讃岐国分寺太鼓保存会」の皆様に来ていただきました。今年で3年連続での来演になります。

去年同様、讃岐国分寺太鼓保存会の皆さんにまた是非来ていただきたいという思いで応募させていただきました。今年は昨年以上にチラシを各方面に配り、集客に努めた結果、かなりのお客様が来場くださいました。毎年思うのですが、生の和太鼓の演奏は迫力が違います。足元から全身に伝わる振動が心地よくもあり、どこか懐かしさを感じるものがあります。

和太鼓が奏でる音による躍動感とは私たちの生活の中で無くてはならないものなのかもしれません。来年も是非来ていただきたいと思う一日でした。



施設交流卓球大会 令和6年12月5日(金)

2025.12.5 丸亀市体育館で行われた香川県知的障害者福祉協会開催の「第5回 施設交流卓球大会」に参加しました。6名の利用者様が参加し、トーナメント形式で試合が進んでいきました。勝ち進む利用者様もいれば惜しくも敗退する利用者様もいましたが、それぞれがプレーしている所を見守り、つい声を出して応援したりと力が入る場面もありました。

昼食は数種類のお弁当の中から好きなものを選ぶことが出来たり、おやつにお菓子の詰め合わせのサービスもあったりで、休憩時間も楽しく過ごすことが出来ました。午後からは準決勝、3位決定戦、決勝戦が行われ、会場は大いに盛り上がりしました。朝日進也氏が準優勝することが出来、大変健闘致しました。これもレクリエーションで行っている卓球教室で、ボランティアで来てくださっている先生の指導の賜物と思います。

上位決定戦に進めなかった利用者様にはチャレンジマッチが用意され、交流試合を通して、利用者様同士の親睦を深めることが出来、利用者様それぞれが卓球の楽しさを感じられる一日となりました。

生活支援員 多田



初詣 令和8年1月5日(月)～6日(火)

令和8年1月5日 冠纓神社、1月6日 三谷八幡宮に初詣に行きました。鳥居をくぐり、手水舎で手を清め、神殿の前に立ち賽銭箱に賽銭を入れた後に、積極的に鈴を鳴らす利用者様が多くいました。参拝時には「二礼二拍手一礼」し、神殿に向かって手を合わせてお参りする利用者様を見ると、今年も健康で過ごせますようにと願うばかりです。三谷八幡宮では神殿に入る際、靴をそろえたり、周りの動きに合わせて頭を下げていました。お祓いの後は、宮司様のお言葉をよく聞き落ち着いていました。毎年行っている初詣ですが、利用者様の成長に嬉しく感じました。

主任生活支援員 松田 仁美



ヒルの療育【関わり】紹介

もって継続する。

②療育って楽しい

数字合わせ、輪ゴムの色分け、広告でゴミ箱折り等、日々継続することで、一つひとつ伝えなくても自分で考えて置いたり、分けたり、折ったりしています。丁寧にかかわる事によって器用に出来るようになります。



③お手伝い



ユニット玄関前を清掃するのは毎日の日課になっています。朝食終了後、ほうきを上手に使い、ゴミを集めています。



洗濯ばさみで上手に止めます。洗濯ばさみがうまく利用できるようになったのは、療育で練習した成果です。

④体力づくり



三谷町の日山を登って日々の健康管理に務めています。併せて施設内のコースでウォーキングを継続しています。



トピックス①

河津桜満開

3月5日 坂道途中の河津桜は満開です。春が近づいているという事です。



利用者様の横顔とウインド

2004年12月に三谷町の小高い丘にウインドヒルが根を下ろしました。

ポム・ド・パンとはフランス語で「松ぼっくり」です。松ぼっくりは松の木の生命である種子が住んでいるおうちです。一年中緑の葉をつけ、その生命がここで育まれて、大きく枝を広げていきます。利用者もこの地で、強く、大きく、たくましく生活を営んでいます。

誰からも愛される人に成長できるように支援を継続し、正しいことを、物事の善悪を伝えることで、障害があっても共に生活する力を養うことができます。地域に繋がり、ともに豊かに楽しく、そして役割を持てる大人になってほしいと願っています。

そんな思いを継続して22年目を迎えています。日課の中には、基本的生活習慣の確立に向けて、起床、洗面（自分で顔が洗える）から始まり、作業、ウォーキング、レク、お手伝い、課題提供、のんびりタイム、毎日のお風呂など楽しい時間を共有し、仲間と過ごす日課を満喫しています。

生活の一つひとつに一貫性を持ち、コツコツと積み重ねること、継続することがなにより大変で大切なことです。ご本人の障害特性を鑑みて寄り添った支援を利用者様の横顔からご覧ください。

管理者 松原正子

コツコツと、一貫性を

①作業風景



ダンボールを重ねる。ボンドを使って貼る。ボンドのだし加減が慣れてくると、適量に出せる様になり、綺麗な作業の完成へとつながってきました。



小さい部品も丁寧に扱い、上手にチューブケーブルを通せます。なかなか根気のいる作業!! 積み重ねた時間に比例して上手に出来るように成長しました。

ナイスRUN!!

走るのって気持ちいい



『自閉症のこだわり、あきらめない』を強みとしたマラソン!! 彼は、25歳のころからマラソンを始め、現在もフルマラソンに挑戦し続けています。

走ることを通して培われた粘り強さや前向きな姿勢は多くの人の心を動かしています。そのひたむきな挑戦は、私たちに大きな感動と勇気を与えてくれます。

2010年4月、28歳の時にとくしまマラソン、フルマラソンにエントリー。4時間11分で完走。32歳、2013年12月、ハワイ、ホノルルマラソンにエントリー、5時間7分で完走。

現在44歳で今回の香川で初のフルマラソン「かがわマラソン2026」にエントリーして42.195kmを4時間51分でRUN! 練習の積み重ね、本人の頑張り、伴走者の協力、関係者のバックアップ、地域の方々の応援、様々な方々に繋がり、ともに豊かな生活を楽しんでいるようです。

ハッピーニューイヤー クリスマス会

令和8年1月20日(火)

主任生活支援員 松田 仁美

令和7年12月16日に開催予定であった「クリスマス会」は事情によりやむを得ず中止となりました。クリスマス会を楽しみにしていた利用者様の為に、何か形に出来ないかと職員一同で検討した結果、「ハッピーニューイヤークリスマス会」と題し、令和8年1月20日に仕切り直しました。急な変更に関わらず参加くださいました、「保護者様」、「いつもボランティアでお世話になっている廣野様・新開様」、「利用者様への読み聞かせでお世話になっている高松パイロットクラブ様」、「健康まなび体操でお世話になっている間まなみ先生」、「訪問理容でお世話になっているみかん様」、本当にありがとうございました。

毎年クリスマス会には「菓子工房ルーヴ様」よりウインドヒルの為に美味しいケーキを作ってください、今年は暖かいメッセージも頂きました。今回いつもお世話になっている方々と一緒にクリスマス会が開催できたことに感謝です。これからも利用者様が笑顔になれるような行事を提案していきたいと思います。

毎年クリスマス会には「菓子工房ルーヴ様」よりウインドヒルの為に美味しいケーキを作ってください、今年は暖かいメッセージも頂きました。今回いつもお世話になっている方々と一緒にクリスマス会が開催できたことに感謝です。これからも利用者様が笑顔になれるような行事を提案していきたいと思います。



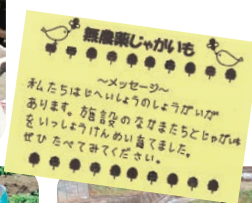
じゃがいも収穫

令和8年1月20日(火)

昨年の10月10日に植えたじゃが芋を1月20日収穫致しました。植えてから約3か月ちょっとですが、その間寒波に見舞われ葉っぱが萎れるなどしてどうなるかと思いましたが、追肥等どうすれば上手に芋が育つかを試行錯誤しながら育てました。収穫の時には期待半分、不安の方が大きかったのですが、思いのほか育ってくれたみたいで、普通にスーパーで売っているサイズくらいのじゃが芋がたくさん獲れました。利用者様も土を掘り返すたびに大きなじゃが芋が出てくるので、寒い中ではありますが、楽しそうに収穫してくれました。

獲れたじゃが芋はサイズ別に分けてバランスをそろえて袋に詰めて三谷コミュニティセンター、仏生山コミュニティセンターに合わせて164袋持って行き、お陰様ですべて完売致しました。一袋550グラム前後入ったじゃが芋が100円での販売なので安さもあったでしょうが、利用者様が大切に育てたじゃが芋を沢山の方に買っていただいたのがとても嬉しく思います。小さいサイズの芋は春じゃが芋の種芋としました。

この会報がお手元に届く頃には畑への植付けは終わっていると思います。梅雨明けには今回以上に収穫できるように大切に育てていきたいと思っています。



*コミュニティセンターへは左記のポップを一つ一つの袋に付けて販売しました。このポップは利用者様が手書きした物です。



協定福祉避難所体制整備に係る連絡会(続報)

令和7年2月20日開催の第3回協定福祉避難所体制整備に係る連絡会において案内がありました「高松市福祉避難所体制整備支援事業補助金」について高松市より連絡があり、避難されてきた方が安心して生活できるように、「段ボールベッド」「段ボールパーテーション」「プライベートスペーステント」を購入するために申請をし、承認を頂き購入することが出来ました。

実際購入した物を避難予定場所に設置し、高松市 地域共生社会推進課と障がい福祉課の担当者が来所し、使用方法等の確認を致しました。

今後災害が発生し、避難してきた方の為に有効に使用したいと考えます。



職員研修

施設内研修

2025年11月10日

現場支援について

サービス管理責任者、現場主任が中心となり、現在の利用者様の様子、支援方法について共通理解とする為の研修を実施致しました。特に共有が必要な利用者様について主任から報告を受ける。また日々の支援の中で報告書の作成が必要な時があるので、一つの例を挙げ、同じ情報の元、職員各々が報告書の作成をしてみようという実践も行いました。今後の職務において必要不可欠な業務なので学んだことを忘れずにしていきたいと思います。

2025年12月8日(月)

虐待防止研修

特定非営利活動法人アイルコート 理事長 相原 伸行 氏

特定非営利活動法人アイルコート 理事長 相原 伸行氏を講師にお迎えし、虐待防止研修を実施致しました。障害者虐待防止法の目的・障害者の定義・障害者虐待の対象者・虐待の種類等7月の研修を振り返りながら学びました。但し今回はいくつかの事例を元に虐待であるか否かの判別及び、どのようにすべきかを自分で考える演習があり、とても勉強になりました。今後の研修において、他の施設と合同で行うことも様々な意見や考え方に触れるいい機会になるので、検討する価値はあるとのアドバイスを頂きましたので、考えてみたいと思います。



2026年1月26日(月)

感染症予防について 高松市保健所 竹内史乃氏、津守雄加氏

高松市保健所 竹内史乃氏、津守雄加氏を講師にお迎えし、感染症の予防について研修を実施致しました。毎年この時期にはインフル・コロナ等の感染症予防及び対処法について学んでいます。改めて感染の経路を復習し、まず福祉施設の職員として感染しない行動を取ることが重要であり、万が一感染したとしても他者に感染させない、きっちり治すことが大事になってきます。今日の研修で自身が感染し、症状が現れない状態でも他者には感染させる可能性がある事を学び、いかに自身の体調管理に注意を払わなければならないかを考えさせられました。

2026年2月9日

個別支援会議

サービス管理責任者を中心に現在の利用者の様子を踏まえた、令和8年度の「個別支援計画」の原案を作成するための研修を実施致しました。個別支援計画は利用者様の意思決定を尊重する内容でなければいけません。半年ごとにモニタリングを実施し、必要に応じて計画の見直しを図ることも大事なことです。原案を作成するにあたり、職員各々に各利用者様の今困っていること及び共有すべき事を話してもらいました。今日話し合った情報を元に個別支援計画の原案を作成していきます。



消火訓練

令和8年2月13日(金)

2月13日(金)避難訓練後に消火訓練を行いました。高松南消防署より水消火器をお借りし、四国アラームさんに実践指導していただき、仮想火元に向けて噴射訓練致しました。

初めて消火器を触る職員もいましたので、大変勉強になったかと思います。消火器に興味津々な利用者様も恐る恐る触りながら、使い方を学んでいました。

いつ火災が起こっても誰でも消火活動が出来るようにし、どこに消火器があるのかも職員全員が把握しなくてはなりません。今後も定期的に訓練の中に取り入れていきます。



避難場所に集合⇒
座って待つ、とてもスムーズな移動でした。



水消火器を利用して実体験!!
勢いよく水を飛ばしました。

トピックス②

しだれ梅満開

2月17日 事務所南にあるしだれ梅は満開です。



クララ卒業

2018年11月より地元、通谷西よりウインドヒルへやってきた山羊の「クララ」が1月28日にウインドヒルを卒業し、「仏生山の森」に移り住みました。施設の斜面を軽快に歩き、雑草を食べてくれることで環境整備に一役買ってくれていましたが、これからのクララの事を考え、よりいい環境で過ごしてほしいという願いから受け入れ先を探して「仏生山の森」に連絡を差し上げたところ、直ぐに逢いに来てくださり、即決で受け入れを快諾してくださいました。卒業する最後の日には、利用者様皆でお別れの挨拶をし、寂しくなりますが、クララの新しい場所での生活の安定を願い見送りました。

「仏生山の森」は高松市立みんなの病院の駐車場側線路のすぐ南にあります。

施設からはそんなに遠くない仏生山町にいますので、お近くに行かれた方は是非会いに行っておあげてください。



地域交流棟・オレンジドーム・研修棟地域開放

私どもの設備「地域交流棟」「オレンジドーム」「研修棟」を利用しませんか。

地域交流棟は卓球台も備えていて、現在、卓球クラブの方の土日の練習の場として利用してもらっています。音楽を使用した催し物にも最適です。オレンジドームでは地元のクラブチームの方々がバーベキューなどに利用されています。

研修棟も会合・研修会などで利用してもらっています。

利用料は無料ですが、冷暖房費は必要です。

気軽にお問い合わせください。

TEL 087-888-4277

FAX 087-888-4278



社会福祉法人ポム・ド・パン後援会会員

敬称略・順不同

●令和7年度個人会員

村中スミ子 辻 正彦

令和7年11月1日～令和8年3月11日現在、以上の方々に継続及び新規にご入会して頂きました。

令和8年4月1日以降にご入会の方々は、次回の会報にお名前を掲載させていただきます。本当にありがとうございます。

社会福祉法人ポム・ド・パン後援会のご案内

社会福祉法人ポム・ド・パン後援会は、当法人が運営する障害者支援施設「ウインドヒル」をサポートしています。今後長年にわたり、利用者一人ひとりを大切にしたい理想的な療育を行い、施設の整備を継続的に発展させてゆくには、より多くの方々のご支援を必要としております。

何卒、私達の趣旨をご理解いただき「社会福祉法人ポム・ド・パン後援会」にご入会下さいますようお願い申し上げます。

なお、すでに会員の方には毎年度初め4月1日付で継続お願いのご案内と振込用紙を送付しております。よろしくお願いいたします。

[年会費] 個人会員 一口3,000円 団体会員 一口10,000円

[ご入金方法] 郵便振替 口座番号 01690-3-74305 口座名称 社会福祉法人ポム・ド・パン後援会

あたたかいご支援、本当にありがとうございました



社会福祉法人ポム・ド・パンのホームページです。
当法人からのお知らせやウインドヒルでの取り組みなどを随時更新していますので、是非ご覧ください。スマートフォンでは、右のQRコードから読み取れます。
アドレス：<http://www.pomme-de-pin.or.jp/>



社会福祉法人ポム・ド・パン

編集後記

今年初めて「かがわマラソン2026」が開催されました。高松駅から徒歩圏内のあなぶきアリーナ香川を発着するコースで、1万人規模の都市マラソンとなります。アップダウンも少なく、気候もいい瀬戸内の都市での開催ですので、記録を狙える大会になることが期待されます。四国にはお遍路文化があり、もちろん香川でもお接待の心が古くから根付いています。コースには「給うどん所」という水の代わりに讃岐うどんが提供され、参加者の皆さんはこれを楽しみにして、朝食を抜き何杯も食べた方もいらっしゃるようです。今後このマラソンが日本全国に認知され、より多くの方が香川に来県してくれることを県民として望んでいます。



松ぼっくりのポムです。



松ぼっくりのパンです。